

MACF 礼拝説教要旨

2023 年 8 月 20 日

本日の OCC での礼拝は「納涼落語礼拝」ということで
露のききょうさんの落語を楽しみつつ礼拝をすること
になっています。時間は午前 10 時からです。

でも、落語は著作権のことなどがありますので配信ができませんので
別に説教を収録してきましたのでお聞きください。

MACF 礼拝説教

「農夫たちの勘違いと悪意」

ルカによる福音書 20 章

「ぶどう園と農夫」のたとえ

9 イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。

「ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。

10 収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、
僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、
何も持たせないで追い返した。

11 そこでまた、ほかの僕を送ったが、農夫たちはこの僕をも袋だたきにし、
侮辱して何も持たせないで追い返した。

12 更に三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせてほうり出した。

13 そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。

わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう。』

14 農夫たちは息子を見て、互いに論じ合った。『これは跡取りだ。殺してしまおう。
そうすれば、相続財産は我々のものになる。』

15 そして、息子をぶどう園の外にほうり出して、殺してしまった。

さて、ぶどう園の主人は農夫たちをどうするだろうか。

16 戻って来て、この農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない。
彼らはこれを聞いて、

「そんなことがあってはなりません」と言った。

17 イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。

『家を建てる者の捨てた石、
これが隅の親石となった。』

18 その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に
落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」

19 そのとき、律法学者たちや祭司長たちは、イエスが自分たちに
当てつけてこのたとえを話されたと気づいたので、イエスに手を下そうとしたが、
民衆を恐れた。

* * * * *

「主人と農夫」というモチーフでのお話はイエス様がよく用いた内容でした。
この話の土台は「この葡萄園の持ち主は主人であり、農夫は託され、任されていた
雇われ人に過ぎないということです。

ところが

読んでいくと、農夫たちのとんでもない勘違いに気付かされます。農夫はこの葡萄園もその収穫も自分たち
の手柄であり、自分たちが好き勝手に取り扱って良い、まるで自分が経営者であるかのように感じながら仕
事をしているということです。

主人は収穫の報告と引き取りのために僕を送りますが、農夫たちは結束して僕たちを
なんと3回とも痛めつけ袋叩きにし、何も持たせずに送り返します。

最後に主人は自分の愛する息子を農園に送り込みますが、農夫たちは、その息子に対しても
悪意を抱き、彼を殺してこの葡萄園を自分たちのものにしてしまおうと企て、実際に
息子を殺してしまうのです。

神さまは、そのことを黙って見ているわけではありません。彼らはその仕業の報復をうけることになります。

さて、これはなんの話なのでしょう。

文脈としては、当時の宗教指導者たちが自分たちの利得を求め、既得権益にあぐらをかき
神様に対して報告もせず、相談もせず、好き勝手にそこに結実している「みのり」を自分たちのものにしてし
まっている姿が描かれています。

彼らは仕事をしていなかったわけではないでしょう。

組織を作り、それを守り、人々への教えも説いていたと思います。

しかし、それらすべてが「自分たちのため」であり「自分たちの栄誉のため」「自分たちの
満足のため」の作業であって、神様から託されたものであるはずなのに、神様への報告や
神様との感謝の共有がまったくなかったことがわかります。

これらの出来事は現代においても起こっているように思います。

神様は、私たち人間をこの世界の「いのちあるものをケア」させるためにこそ、ここに置き
その祝福やみのりを神様と共有し、神様に報告し、感謝し、神様と相談しながら
生きる必要がありました。

ところがいつの間には私たちはこの世界は私たちが作り、私たちのためにあり、神様への報告も相談も感謝も必要などないのだと豪語し、自分たちが所有者で、自分たちが神と等しい存在であるかのような生き方を始めたのです。

神様は折に触れて警告を発し、報告を求め、喜びや悲しみの共有を求めておられるのにそれを軽蔑し、全く無視して走り続けている現代人が大勢いるように感じます。それはもう貪欲の塊と化した人間の姿と言えると思います。

この物語にでてくるしもべとは「聖書の教え」と理解できるでしょうし、息子は文字通りイエス様のこととして理解できるでしょう。

み言葉に応答していくこと、神様に報告し、相談し、喜びや悲しみを共有しながら生きること。そして、御子イエス様の大きな愛を知り、その赦しを受け取り、感謝しながら、イエス様と自分の人生の全てを共有しながら生きること、そこに本来、私たちが立つべき位置があるのです。

その生き方のなかでこそ、インマヌエルであるイエス様のありがたさがわかってくるのです。

* * * *

MACF 礼拝説教映像はこちらです・

https://youtu.be/l_mC6wSLcQw